

各校の成果と課題、「今後、力を入れて取り組む内容」

中学1年生

学校	教科	成果○と課題●	今後、力を入れて取り組む内容
川之江北中	国語	○ 全体的によくできている。特に我が国の言語文化に関する事項がよくできている。 ● 説明的な文章の内容を読み取る力に課題がある。	・ 資料やグラフを見て、自分の意見を持つ活動を増やす。 ・ 言葉の決まりなどに関する学習を進め、読む力を高める。
	社会	○ おおむね良好な状況である。 ● 世界の諸地域について知識の定着が不十分である。	・ 基礎学力の定着に向けて、小テストなどを効果的に行う。 ・ ICT機器などを利用して、様々な資料に触れさせ、多面的、多角的な思考力の向上を目指す。
	数学	○ 一次方程式の計算や比例式を解く問題は理解できている。 ● 文字式の計算や比例・反比例の内容理解に課題がある。	・ 分数や累乗などの計算ができるように反復練習して力をつけさせる。 ・ 関数についての基本的な内容を復習して理解させる。
	理科	○ 基礎問題の正答率は比較的良好である。 ● 活用問題の正答率がやや下がっており、エネルギーに関する内容の定着が不十分なところがある。	・ テスト形式で復習問題を解く機会を増やし、知識を活用する力の定着を図る。 ・ ICT機器などを活用して、映像や立体的な図を使った問題を解く機会を増やす。
	英語	○ 聞くこと、読むことの問題において、要点を捉えて理解する力が身に付いてきている。 ● 文構造や文法事項を理解して正確に英作文を行う問題では正答率が著しく低かった。	・ 語学習得の基礎・基本として、学び方を身に付け、習慣化することで、語彙や文法事項の定着を図る。 ・ 学んだ文構造や文法事項を用いて自己表現をするために英作文に取り組む。
川之江南中	国語	○ 聞き取りでは、目標値及び全国正答率と同程度であり、伝えられた言葉を整理し、まとめる力が付いてきている。 ○ 文学的文章の読み取りについては、多少正答率が前後しているものの、目標値は達成しているものもあり、作品を読む力も徐々に付きつつある。 ● 校内平均正答率が市平均よりも低い。 ● 記述問題は、全体的に正答率が低く、文章化する力が不足している。 ● 漢字や歴史的仮名遣いなどの知識問題については、個人差が大きくなっていった。	・ 漢字をはじめとすることわざや古典の基礎的内容の振り返り、簡易テストを行う。 ・ 作文や要約などを紙に書かせる形で行う。 ・ 発表の機会等を設け、文章構成の力、伝える力の向上を目指す。
	社会	○ 教科の正答率は市内平均を上回っており、地理分野の正答率は全国平均をやや上回っている。 ○ 基礎と活用問題の正答率は全国平均と同程度で学習内容は一定の成果が出ている。 ● 歴史分野の正答率は全国平均と同程度であり、特に飛鳥時代～奈良時代の律令の理解が不足している。 ● 歴史分野において、資料を読み取る力が劣っている。	・ 歴史的分野の基礎的・基本的内容が確実に定着するよう、単元毎の復習を丁寧に行う。 ・ 文章で説明する力を向上させるよう、自分の言葉でまとめ、伝える力を付けていく。
	数学	○ 数と式の領域では、目標値に近い値や上回っている値を獲得している問題がある。 ● 校内平均正答率が市平均よりも低い。 ● 基本的な計算能力があまり身に付いていない。 ● 比例・反比例の分野では基礎の定着が見られない。	・ 反復学習を行い、基礎・基本の定着を図る。 ・ 自分の考えを表現する機会を増やすために、思考力・判断力を必要とする問題を取り入れていく。
	理科	○ 化学分野（粒子領域）が全国平均正答率を上回る問題が多く、物理分野（エネルギー領域）も市平均より上回っている問題が多い。 ○ 校内正答率は市平均正答率よりやや高い。 ● 生物分野（生命領域）の平均正答率が全国平均、市平均と比べて低い。 ● 計算問題の正答率が低い。	・ 生物分野の復習に力を入れて取り組む。 ・ 個に応じた問題演習を行う。

川之江南中	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内平均正答率は、市平均を上回っている。</li> <li>○ 書く力と読み取る力が付いてきている。</li> <li>● 読むこと、聞くことは、出題のされ方によって正答率にばらつきが見られる。</li> <li>● 対話の内容を聞き取り、適切に応答する力に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英文を読むこと、対話形式での質問や応答の機会を増やし、基本的な表現の定着を図る。</li> <li>・ 基礎・基本の定着を図り、読む、聞く、書く力がバランスよく付くように努める。</li> </ul>	
	三島東中	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章を読み取る問題で、市の平均を上回っている。</li> <li>● 「書くこと」に関する領域では、正答率が低く、問題文の指示に従って書くことや、漢字を正しく書くことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在行っている漢字の小テストを継続して行う。</li> <li>・ 二百字帳の宿題については、今回の正答率と宿題の提出の状況が比例している部分が見受けられるため、確実に課題の提出ができるよう指導する。</li> </ul>
		社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 六つの大問のうち、四つの大問が市平均を上回っている。また、全30問中、全国平均正答率を上回っているのが12問あった。</li> <li>● 「世界各地の人々の生活と環境」の雨温図や「世界の姿」の時差や地図の読み取りなど資料活用や思考判断が身に付いていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地理においては、授業の中で資料分析のポイントを押さえ、ワークブックなどで問題練習を行う。</li> <li>・ 思考力や判断力を高めるために、グループやペアで意見交換をする機会を取り、文章で表現する場面を増やす。</li> </ul>
		数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「文字式」、「一次方程式」の領域で市平均を上回っている。</li> <li>● 「図形」の領域の正答率が全国平均から-9ポイントとなっており課題がある。特に「図形の移動」についての問題で正答率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図形に関する学習では、観察や操作、作図などの活動を多く取り入れ、図形の性質を理解できるようにする。</li> <li>・ 単元の復習として小テストを行い、知識・技能の定着を図る。</li> </ul>
		理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「動物の分類」では、市平均を上回っている。</li> <li>● 全分野で正答率が低く、問題の意図を読み取り正しい答えを導くことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小テストを継続して行い、基礎の定着を図る。</li> <li>・ 文章問題を繰り返し出題し、読み取り問題に慣れるよう反復練習を行う。</li> <li>・ 課題の提出を確実に行うよう、指導していく。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ほとんどの領域で、市平均を上回ることができている。</li> <li>○ ある程度まとまった英文を聞いて内容を理解する力は十分身に付いている。</li> <li>● 英作文の正答率が低いいため、知識を活用して書く力を伸ばす必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小テストを行い、単語や文法の基礎を固めていく。</li> <li>・ 聞き取る力を生かし、条件に合った文章を英語で表現する力を付けていく。</li> </ul>		
三島西中	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「活用」の分野においては、全国平均を下回っているものの、目標値を超えることができた。</li> <li>● 記述や漢字問題での無解答率が高く、知識面の強化や記述問題に対する苦手意識を払拭していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漢字などの知識問題に対しては、毎授業で小テストを行っているため、継続して取り組み知識を定着させていく。</li> <li>・ 自分の思いや考えなどを書く活動を増やし、苦手意識をなくしていく。</li> </ul>	
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地理分野の基礎的な知識に関する問題について、全国平均と同程度の正答率であり、知識が身に付いてきている。</li> <li>● 時代背景の異なる事例を混同するなど、歴史的分野の基礎問題の正答率が低いいため、理解を高めていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地図や資料から読み取る学習活動を多く取り入れ、考察する力を付ける。</li> <li>・ 継続して小テストなどの反復練習を行い課題に対応する力を付ける。</li> </ul>	
	数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 正答率は全国平均には及ばないが、市町村平均とは同等になっている。</li> <li>● 基礎的な知識、技能が十分には身に付いていない。特に計算に課題が残る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 復習、小テストなどの反復練習を行い、基礎・基本の定着を図る。</li> <li>・ 学習者用端末を活用し、イメージがわきにくい課題に対しては視覚に訴え、ドリル等で反復練習を行うなど理解を深める。</li> </ul>	
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎、活用ともに市町村平均を上回っている。</li> <li>● 化学分野の正答率が目標値に対して低く、知識と論理的思考力に課題が残る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実験やモデルを活用し、原理現象を可視化して理解を深めるとともに論理的思考力を養う。</li> <li>・ 復習など反復練習を行い、様々な課題を扱う中で論理的思考力を養う。</li> </ul>	
	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 語彙の知識・理解に関する問題の正答率が他の平均正答率を上回っている。</li> <li>● 場面に応じて英文を書く問題の正答率が低く、自分の考えを英語で正しく表現することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎・基本を大切に授業を進め、今後も継続して単語の練習、および小テストを行う。</li> <li>・ 4技能が偏ることなく伸ばせるよう、見通しを立てて授業を行う。</li> <li>・ 自分の考えを英語で表現する機会を増やし、書く力を身に付けさせる。</li> </ul>	

三島南中	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話の内容を読み取る問題、登場人物の相互関係の問題における正答率が高く、初見の文章にも対応できている。</li> <li>● 漢字の読み書き、文法問題の正答率が低い傾向にある。作文の基本的な書き方について力を付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章の要点を絞ったり、登場人物の関係性を把握したりする活動には比較的抵抗なく取り組んでいるので、それを生かして、自分の意見をまとめたり、漢字を使ったりしながら、文章を書く力を伸ばしていきたい。</li> <li>・ 文法や言語に関する知識の定着のため、継続的な学習の積み重ねが必要である。</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 知識における正答率は、比較的平均値が高い。歴史分野では、古墳時代までの正答率が低かったので、基礎の徹底を図りたい。</li> <li>● 思考・判断の正答率にばらつきがあり、記述問題の正答率が低い傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的な語句の押さえを続けるとともに、年代の並べ替えや資料を見て分析する問題の対策を立てる。</li> <li>・ 記述問題で特定の語句を用いて解答する場合や、資料を見て解答する場合など、様々な問題に対応するために日々の小テストや1人1台端末を用いて復習を行う。</li> <li>・ 授業の振り返りに文章でまとめる等の時間を設け、克服に努めたい。</li> </ul>
	数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 正負の数の加法、減法、乗法における正答率が高い。一次方程式や比例反比例の立式についての正答率が高い。</li> <li>● 四則計算の累乗や除法の正答率が低く、特に除法が全国平均よりも大きく下回っている。比例反比例のグラフ作成や座標関連問題の正答率が低い。思考力を試す問題の正答率が引く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中に復習の時間を設けて、正負の四則計算について反復練習を増やす。</li> <li>・ 方程式や比例反比例の等式の関係にある問題を多く出題し、復習を行う。</li> <li>・ 思考力や活用力を問う問題を応用問題として授業の中で扱う。</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生物分野（特に動物分野）を始め、身近に体感できる分野の知識が身に付いている。</li> <li>● 化学・物理分野において、実験過程は理解しているが、結果と結びついておらず、結果に関する記述問題の正答率が低い傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実験の過程のなかに結果に深く関わるものがあることを抑え、一連の流れとして理解できるよう、過程と結果を結び付けた授業展開にする。</li> <li>・ 正答率に偏りがある問題を習熟度に合わせて反復し、理解を高める。</li> </ul>
	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 英語の質問に適切な答えや相槌を選択することに長けている。また、自分の好きなものを英語で書くことはできる</li> <li>● 思考・判断・表現の正答率が低い傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分のことについて表現する英作文が書けるように毎回の授業で英語で友達と話す活動を実施し、伝えたことや友人から聞いたことを書く練習をする。</li> <li>・ 文章構造を定着させるために、会話を通じて反復練習を行う。</li> </ul>
新宮中	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎問題、活用問題の正答率は、全国平均・市平均とともに上回っている。特に、漢字の読みや語句、文法の正答率が高かった。</li> <li>● 文章を書くことを苦手とする傾向が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ドリル学習系のソフトウェアを活用し、語句や漢字、文法などの基礎力の更なる定着を図る。</li> <li>・ 文章を書く活動を多く取り入れ、個に応じた学習支援を行う。</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎問題、活用問題の正答率は、全国平均・市平均とともに上回っている。特に、歴史的分野の正答率が高かった。</li> <li>● 地理的分野において、記述式の問題を苦手とする傾向が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元の終わりに基礎問題や活用問題を解く時間を増やすことにより、安定した学力の定着を図る。</li> <li>・ 資料の読み取りや記述式の問題に取り組み、思考力の定着を図る。</li> </ul>
	数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎問題、活用問題の正答率は、全国平均・市平均とともに上回っている。特に、一次方程式の計算問題の正答率が高かった。</li> <li>● 関数領域において、具体的な事象から比例・反比例であることを判断し、答えを導く問題を苦手とする傾向が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元の終わりに練習問題を解く時間を増やすことにより、問題に慣れ、知識を様々な問題に応用する力を付ける。</li> <li>・ 個に応じたドリル学習を行うことにより、基礎・基本の定着を図る。</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 領域別の正答率では、すべての領域で全国平均や市平均を上回っている。特に、生物領域については苦手意識を持つ生徒も少なく、基礎・基本の定着ができています。</li> <li>● 化学分野の一部の問題で苦手な単元がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個に応じた学習支援で学習の定着が図れていない生徒に対応する。</li> <li>・ 苦手な単元を中心に、学習内容と日常生活とのつながりを意識して説明を行い、より定着しやすい形で復習を行う。</li> </ul>
	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎問題、活用問題の正答率は、全国平均・市平均とともに上回っている。日々の学習の成果が発揮されている。</li> <li>● 全体的に見ると苦手な単元はないが、個々に結果を分析し、学習の取りこぼしを拾い上げていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎・基本の徹底を意識する。</li> <li>・ 語彙力の強化を図る。</li> <li>・ 個々に応じた学習支援を行う。</li> </ul>

土 居 中	国 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 漢字を正しく読む力を付けている。話合いの内容から必要な情報を聞き取りまとめることができている。</li> <li>● 文学的文章から登場人物の心情や関係について読み取る力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漢字の書き、文法、言葉など基本的知識を繰り返し学んだり、復習や小テストを行ったりすることで定着を図る。</li> <li>・ 様々な文章を読むことで、文章の内容を読み取る力を付けることができる機会を増やす。</li> </ul>
	社 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 無答率は低く、自分なりの意見を出そうとする意欲は高まっている。</li> <li>● 基礎的な知識を十分理解できていないため、選択問題や記述問題での誤りが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎時間、前時の内容の小テストを行い、基礎・基本の定着を図る。</li> <li>・ 授業や課題で記述式の問題を解く機会を増やす。</li> </ul>
	数 学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 正の数・負の数の問題で正答率がやや高い。</li> <li>● 全体的に基礎・基本の定着ができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎時間、小テストを取り入れ復習ができる環境をつくる。</li> <li>・ 粘り強く問題を解決していこうとする態度を養うために、授業の題材を工夫する。</li> </ul>
	理 科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 植物や動物についての学習の理解度は、他に比べて高い。</li> <li>● 記述式問題の正答率が低く、実験結果等を文章で説明することができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習した内容を復習する時間を設ける。</li> <li>・ 実験や観察から分かったことを、各自で文章にまとめる時間を多く取り、班やクラスで共有していくことで、文章にまとめることに慣れる。</li> </ul>
	英 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ リスニング問題の正答率はやや高い。基本文を習得し、書くことの力が伸びている。</li> <li>● 語形や文構造を理解して問題を解く力が付いておらず、正答率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語順を正しく理解し、派生して英作文を行えるように小テストの内容を工夫して、定着を図る。</li> <li>・ 様々な問題に触れ、解く機会を増やす。</li> </ul>